



夏休み寺子屋 「結」開催

8月21日～23日 IN 小出小学校

魚沼市まちづくり委員会
教育文化部会 佐藤 鈴子

まちづくり委員会教育文化部会では、「何かしら地域の子どもたちへの学習補助ができないものか。」と、2年位前から委員の桑原郁夫さんを中心に、有志でプロジェクトを組み、計画をしてきました。そして、この夏休み、小出小学校、教員OBの皆さま、地域の皆さまの協力を得て、実現の運びとなりました。

初日8月21日に開校式を行い、21日から23日の3日間、各日9時から11時30分、小出小学校図書館において、夏休みの学習の仕上げのお手伝いとして行いました。子どもたちは夏休みの宿題帳、筆記用具、水筒などを持参し、思い思いの机に座り、各自学習をしていました。6人の先生たち（地元教員OB）が、子どもたちの間を気軽に回って、アドバイスを与えたり、宿題の終わった低学年の子どもたちに本の読み聞かせをしたりしていました。



ボランティアでご指導くださった先生にお話を聞くと、「昔は高学年の子どもたちが低学年の子どもたちに教えたりするのはよく見る光景だった。そうやって教えると、教えた方にも勉強が身につく大変効果的で、今回そういうことも多々あり非常に良いと思いますよ。」とのことでした。また、「子どもたちが一生懸命で、教えていても楽しい。」との声も聞かれました。

学習は3時限に分け、2回入る10分間ごとの休憩では、子どもたちへの息抜きとお楽しみとして、初日は紙芝居、2日目、3日目はミニマジックショーが行われました。

最終日3日目の23日の夕方は、小出の正円寺講堂に会場を移し、終了証書授与式とお楽しみ会を行いました。まちづくり委員会平井正尚会長の、子どもたちへねぎらいを込めたあいさつに始まり、頑張ってくれた子どもたちに、「魚沼昔語りの会」の皆さまが、昔話を語ってくれました。怖い昔話、楽しい昔話、子どもたちだけでなく、保護者の方々、スタッフも一緒に話に聞き入っていました。

昔語りの後は、この夏休み寺子屋「結」の参加者に終了証書を授与しました。この猛暑の中、この寺子屋「結」に参加したことへの、チャレンジ精神と学習に対する意欲を讃え、敬意と感謝の気持ちをこめたものです。そして最後に記念写真の撮影をしてお別れです。

参加者申込みは1年生から6年生まで23名、3日間で延41名の参加でした。皆さん、夏休みのいい思い出にして、他の行事にも元気よい顔を見せてくださいね。



●「出前講座」で勉強会

まちづくり委員会福祉健康部会では魚沼市出前講座を依頼し、7月22日(月)夜7時から小出庁舎を会場に勉強会を行いました(参加者:市民約50名)。

「これからの魚沼地域の医療」をテーマに、新小出病院の院長予定者である県立小出病院の布施院長先生と市新病院対策室の佐藤室長から、それぞれお話をいただき、市民の立場でできる具体的ななかかわり方について学ぶ場となりました。

内容についていくつか、ご紹介したいと思います。

まず、布施院長先生のお話では、2年後に再編成される魚沼地域の医療について、「地域全体が一つの大きな病院である」という地域完結型医療の考え方が示されました。医療機関の役割分担を川の流りに例え、川の上流が慢性疾患などの日常的な医療、下流が非日常の高度救急などの医療として、ご説明がありました。上流の医療は新小出病院・堀之内病院・診療所などが担い、その役割は「日常的な医療や予防であり、コストは比較的少なく、慢性疾患管理と生活習慣管理が中心となること、プロである医療従事者だけでなく、住民自身の力が必要であること」、下流の医療は魚沼基幹病院が担い、役割としては「非日常的な事故や生死に関わる病気への対応が中心となり、コストは非常に高く、多くのプロである医療従事者が必要であること」と、それぞれに大事な役割分担があるとお話でした。

また、患者自身が医療機関で効率的な医療を受けるためのひとつの手段として、患者の検査結果や薬などの情報をかかりつけ医だけでなく、患者自身の同意のもと、病院・診療所の医師がそれぞれの医療機関のコンピュータを通じて共有できるようにする「うおぬま・米ねっと(マイネット)構想」のお話がありました。米ねっとは、患者の個人情報厳重に管理された中で、患者自身が迅速で効率の良い医療を受けられることを目指しており、このことは医療コストの軽減につながるものとしても期待できるのではないのでしょうか。

さらには、医師や看護師などの専門家だけでなく住民自身も貴重な医療資源であるというお話がありました。魚沼市の高齢化率は現在約30%であり、各種データから2035年には41.7%に達するとのことでした。魚沼地域は、全国でも県内でも医師や看護師の数が少ない地域です。住民が健康で暮らしていくには、住民自身が家族の健康を守り、自分自身の健康を守るのだという意識を持つことが大切です。特別なことではなく、日ごろの生活の中で少し気をつけてできること、例えば「禁煙をする」「飲酒はほど



ほどにする」「健診を受ける」「週に3回は歩く」「ジャンクフードを食べないようにする」「自分で血圧や体重を測る」などを意識して行うことが、住民自身でできることとして挙げられました。地域の専門多職種が協働実践を学び、住民自らが自らの健康を守る主体となれば、それは貴重な魚沼地域の医療資

●ビオトープ作り

■作業日:5月18日(土) ■参加者:5人
■場所:入広瀬



最近の日本の農業は、効率的・低コスト化が進み、気がついたら私たちの周りに生き物が段々いなくなっていました。トンボ・トノサマガエル・ドジョウ・ホタル等の住める環境が失われているのではないかと。そこでさっそく休耕田を利用してビオトープを作ってみました。

ビオトープができてから2ヶ月が経過し、水田は水を抜き土が乾いている頃、ビオトープを観察してみると、トノサマガエル・オタマジャクシ・イモリ・トンボ等がやってきました。トンボの産卵する姿も見ることができました。今後、田んぼの周りに生き物が住めるように、賛同できる市民からもビオトープ作りに関心をもってもらい、子どもたちが身近に生き物と接することができる環境にしていきたいです。



観察できた生物

- ・イモリ 6月~7月
- ・アオガエル
- ・ミズスマシ
- ・シオカラトンボ
- ・オニヤンマのやこ
- ・オタマジャクシ
- ・モノサシトンボ
- ・キイトンボ 他

6月15日(土)のフィールドカフェでは以下の意見をいただきました。

- ・花植への活動は、コミ協や地域と一体で活動したほうがよい。
- ・花づくりの母体や団体とタイアップし、花コンテストをしてはどうか。
- ・使用していない山に、桜やこぶしを植えたらどうか。
- ・小出インター付近に、花を植えてはどうか。
- ・小学生とビオトープ作りをし、虫の観察をしてはどうか。
- ・池のない地域に、ビオトープ作りをしてほしい。



★源となり、魚沼版「地域包括ケア」が実現できるのではないかとということでした。新小出病院では、専門職・一般住民向けの教育プログラムを持つ地域医療魚沼学校の拠点として、地域サロンと講堂を設け、市民の医療資源化に向けた取り組みを行うそうです。取り組みの一つ、地域の未来を担う子供たちを対象にした喫煙・飲酒・高カロリー食の依存症に関する教育プログラムは、青少年の健全な育成に大きな役割を担います。これまでの病院は一般的には「病気になったら行って治療するところ」でしたが、新小出病院は地域医療魚沼学校の拠点ともなりますので、病気の方だけでなく、健康な市民も足を運ぶ、心身の健康を醸成する病院となるそうです。

佐藤室長からは、新小出病院の建設等にかかる財源について、話がありました。

布施先生、佐藤室長のお話の後、質疑応答では、5名の部会員から質問をさせていただきました。講演、質問の時間を合わせ、全体で約2時間の勉強会となりました。

●食のモニター制度



私たちの部会は、「食のモニター制度」の設立に向けて会議を重ねています。春の部会では、魚沼市雇用創出推進協議会の開発した試作品2品を試食し、アンケート記入と意見交換を行いました。

約10人で試食しながら意見を述べるなど有意義な時間でしたが、提供者側からすると一同に意見されてもメモをとるのは大変そうでした。

それらの反省点をふまえて、小グループで時間を区切るなど改善案を話し合っています。

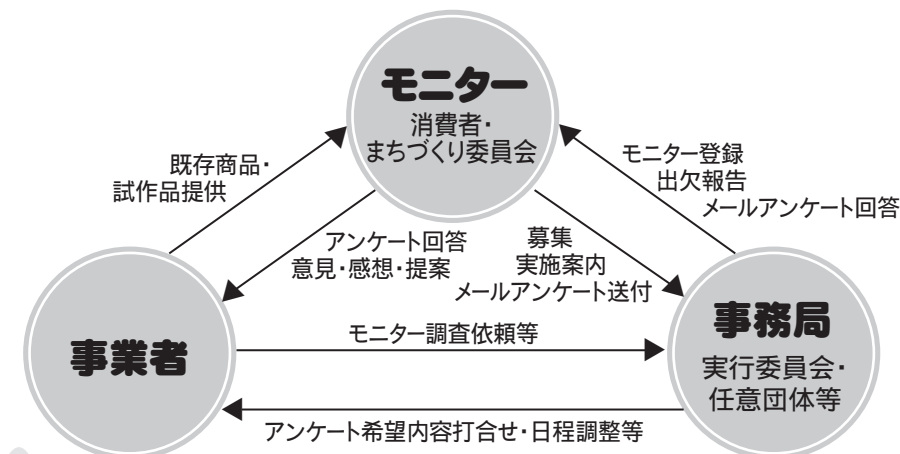
まずは、9月29日(日)に「プレ試食会」を行います。興味のある方は、私たちと一緒にまちづくり委員会に参加してみましょう。

食のモニター制度のメリット

- ①ボランティアモニターなので、事業者を経費が掛からない。
- ②魚沼を元気にしたいモニターなので、愛情と思いやりのこもった消費者の生の声がダイレクトに聞ける。
- ③本音のコメントが聞けるからこそ、事業者側も励みとなり本気で商品開発に取り組んで行ける。
- ④モニターからお墨付きをいただければ魚沼ブランドとして登録しやすく販売しやすい。
- ⑤モニターに好評な商品は、モニターの口コミで販売効果が期待できる。
- ⑥売れ行き不振の既存商品を改善したり、インパクトのあるネーミングを一緒に考えてくれる。
- ⑦何度も改善を繰り返しながら良い商品に仕上がるまで応援してくれる。
- ⑧業種・業態変更したいときにも参考意見が聞ける。
- ⑨様々なアンケートにもお答えする組織として利用することも可能。
- ⑩その他いろいろ...

試作品⇒主力商品に育つ⇒売上アップ⇒事業拡大⇒雇用創出⇒若者定住⇒嫁不足解消⇒子だくさん⇒地域活性化

《魚沼》食のモニター制度イメージ(案)



まちづくり委員会・総会兼合同部会

6月15日(土)小出ボランティアセンター1階ホールで開催しました。

約50名の参加で、平井会長を議長に総会を行い、その後は各部会のテーマに応じたワールドカフェ方式による意見交換・発表を行いました。今回の特徴は懇親会の開催で、場所はそのままに一堂に会して、大いに語り大いに飲んで、参加者全員で懇親を深め合うことができました。

「何とも、親しみのある会であった。」と、参加者の満足が聞こえた総会兼合同部会でした。



魚沼市まちづくり委員会 部会員大募集!!

生活自然環境

福祉健康

地域産業振興

教育文化

まちづくり委員会では、4つの部会に分かれ、それぞれのテーマについて話し合いをしています。一緒にまちづくりをしてくれる仲間を募集しています。

参加希望の方は、ぜひお問い合わせください。

問合せ先

企画政策課まちづくり室

TEL 792-9752 FAX 793-1016

E-mail: chiiki@city.uonuma.niigata.jp



編集後記

春が来てホッとしたのもつかの間、今年も暑い夏でした。地球温暖化のせいとも言われる、ピンポイントのようなゲリラ雨に悩まされ、集中豪雨などの被害も各地でありました。

「さむーい」「あつーい」と言って日々の天候に振り回されながら、1ヶ月、半年と過ぎ、あっという間に秋の気配が感じられる頃となりました。田では稲穂が刈られ、新米が食卓にのり、山々は色づき、紅葉狩り・キノコ狩りと目にもお腹にも嬉しい季節です。

この一息つける秋の時季、自然豊かな魚沼の地の恩恵を受け、彩りの秋・実りの秋を満喫しましょう。

まちづくり委員会だより編集委員 佐藤

平成25年9月25日 第5号 ■発行:魚沼市まちづくり委員会 ■編集:まちづくり委員会だより編集委員

■連絡先:魚沼市まちづくり室(魚沼市役所湯之谷庁舎) Tel 025-792-9752/Fax 025-793-1016
E-mail: chiiki@city.uonuma.niigata.jp

■まちづくり委員会ホームページ: <http://www.machidukuri-uonuma.com>